

茅ヶ崎市自立支援協議会未就学児の相談のしくみ部会報告書（令和 4 年度第 3 回）

件 名	第 3 回 未就学児の相談のしくみ部会定例会
日 時	令和 5 年 2 月 7 日（火） 1 4 時 4 5 分～1 6 時 1 5 分
場 所	つつじ学園
事 務 局	相談支援センター つみき
出 席 者	<p>＝部会員＝</p> <p><input type="checkbox"/> 矢澤 園子 （部会長：茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会）</p> <p><input type="checkbox"/> 水本 友子 （こども育成相談課 こどもセンター）</p> <p>■ 塚田 かれん（こども育成相談課 こどもセンター・代理出席）</p> <p>■ 松澤 志保 （保健所健康増進課）</p> <p>■ 大木 真希 （家庭児童相談室）</p> <p>■ 菅 友美 （障がい福祉課）</p> <p>＝サポートメンバー＝</p> <p>■ 片山 志摩 （茅ヶ崎市立病院 患者支援センター）</p> <p>■ 小川 美佳 （浜須賀保育園 特別支援保育担当者）</p> <p>■ 府川 雅子 （茅ヶ崎駅北口子育て支援センター）</p> <p>＝部会事務局＝</p> <p>■ 譲原 充司 （相談支援センターつみき）</p> <p>■ 檜物 加奈子（相談支援センターつみき）</p> <p>＝自立支援協議会事務局＝</p> <p>■ 志村 光一 （障がい福祉課）</p> <p>■ 小清水 茜 （障がい福祉課）</p> <p style="text-align: right;">■ 出席 □ 欠席</p>
議 題	<p>1 自己紹介</p> <p>2 フローチャートについて</p> <p>3 今後の取り組みについて</p> <p>4 その他</p>
検 討 内 容	<p>1 自己紹介</p> <p>今回から参加したサポートメンバー 3 名へ部会員が自己紹介をした後、3 名からも所属、名前、業務内容、現状等を説明してもらった。</p> <p><浜須賀保育園></p> <p>公立保育園には 2 0 年前から「特別支援保育担当者」と呼ばれている保育士がいる。公的な資格ではないが、発達障がい等に関する一定の研修等を終了した者をそう呼んでおり、現場の他保育士に対し、発達特性</p>

を持つ児の支援等に関する助言を行っている。現在3期生まで育成が進んでおり市内全公立保育園で20名弱いる。但し正式な役職として配置されているわけではなく、また園によって特別支援保育担当者が一人もいない園もあるなど、支援体制としてはまだ体系化されていない。発達に心配にある園児に関しての外部との連携窓口も特別支援保育担当者ではなく園長または主任となっている。しかしながら特別支援保育担当者の研修を受けた者が増えてきたこともあって、園児に対し一律の支援をするのではなく、特性のある児へは個別の対応を取り入れるというような考えが大分浸透してきているなど、取組みの効果が表れている面もある。

<子育て支援センター>

支援センターは母親たちが気軽に本音を話せる場所なので、そこから様々な相談に発展することも多い。月に1度、市内4支援センターと浜見平保育園に併設されている地域育児センター、市母子保健担当で会議をしている。

<市立病院>

市立病院のSTは全年齢が対象で、どちらかというと高齢者の嚥下問題への支援が多く、現状として児童への支援は限定的。今利用している児童はほとんどがNICUの卒業のお子さんである。外部からの児童への支援は今難しい。心理士支援についても同様で児童についてはNICUを経た児が主対象となっている。

2 フローチャートについて

前回の部会で出た意見をもとに修正した支援者向けのフローチャート案について再度協議するとともに、今回参加していただいた子育て支援センター、浜須賀保育園、市立病院の方々にも意見をいただいた。今回のフローチャートは未就学児が療育（児童発達支援等の福祉サービス）に繋がるまでの部分にフォーカスして作成したものであり、概ね今回示した案が現状の形を反映しているものだろうという確認が取れた。

一点、以下の部分がフローチャートで読み取りにくい部分として意見が挙がったので確認を行った。

- ・他市からの転入ケースで、診断はあるが療育利用について保護者が迷っていたり、障がい受容等で気持ちが揺れているケースなどはどの機関が主に支援していくのか。

➡該当する年齢であればこどもセンターでも一旦相談を受けることは可能だが、今のこどもセンターの役割としては療育の必要性を見立

てることが主となっており、必要性が示されている上での継続的な相談支援というのは現状なかなか難しい。そのようなケースについては保健師やつみきが相談に乗ることができる。ただし、この問題に限らず、発達に関する一次的な相談の入口としてはチャートに載っているどの機関も受けることが可能ではある。相談を受けた機関がこのチャートをもとにして適切な機関に確実に繋ぐということが大切。

3 今後の取り組みについて

各部会員にフローチャート最終案を送る。最終的に広く未就学期の支援者間で共有できるものとするため、内容が公開できるものになるよう、各部会員がそれぞれの所属機関内で確認を取る。その後、来年度の自立支援協議会代表者会議に諮り、承認を得た上で支援者間で活用するツールとして関係各所に配布する。

次の取り組みとしては未就学児に関する保護者向けの分かりやすい表の作成を考えていく。

4 その他

- ・全体的に「発達障がい」という言葉がメディアなどで取り上げられるようになったためか、保護者のとらえ方にも変化がある。以前は保育園などから発達に関して気がかりなことを保護者に伝えることが難しかったが、今は保護者の方から発達に問題があるのではないかと聞いてくるが多くなったり、第一子が療育をしているので第二子も低年齢のうちから療育を希望する方が増えている。
- ・医療的ケアが必要な児が増えているように思うが、市内に児童発達支援としての受け皿が足りていない状況がある。今後、医療的ケア児コーディネーターの取り組みが機能しはじめた際は市立病院の相談室などともコーディネーターが繋がるなどして、医ケア児が必要な支援を受けられるようになると良い。

茅ヶ崎市自立支援協議会未就学児の相談のしくみ部会報告書（令和5年度第1回）

件名	令和5年度 第1回 未就学児の相談のしくみ部会定例会
日時	令和5年6月12日（月） 15時00分～16時30分
場所	つつじ学園
事務局	相談支援センター つみき
出席者	<p>＝部会員＝</p> <p><input type="checkbox"/>矢澤 園子（部会長：茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>吉岡 真紀（部会長：茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会・代理出席）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>水本 友子（こども育成相談課 こどもセンター）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>久布白 直美（こども育成相談課 こども担当）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>大木 真希（こども育成課 家庭児童相談室）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>小林 彩美（障がい福祉課）</p> <p>＝サポートメンバー＝</p> <p><input type="checkbox"/>片山 志磨（茅ヶ崎市立病院 患者支援センター）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>小川 美佳（浜須賀保育園 園長）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>府川 雅子（茅ヶ崎駅北口子育て支援センター）</p> <p>＝部会事務局＝</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>譲原 充司（相談支援センターつみき）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>檜物 加奈子（相談支援センターつみき）</p> <p>＝自立支援協議会事務局＝</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>志村 光一（障がい福祉課・協議会全体事務局）</p> <p style="text-align: right;"><input checked="" type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席</p>
議題	<p>1 自己紹介</p> <p>2 フローチャートについて</p> <p>3 今後の取り組みについて</p> <p>4 その他 情報共有</p>
検討内容	<p>1 自己紹介</p> <p>今回新規参加したメンバー3名が自己紹介を行った。</p> <p>2 フローチャートについて</p> <p><事務局></p> <p>フローチャートについては部会内での確認は終了し、協議会の会長、副会長にも説明を行った。8月の代表者会議での委員の方々への説明を行った後、関係各機関に配布するという流れになるだろう。</p>

=部会員からの意見等=

・幼児期にどこにもつながらず、直接就学委員会に行く人がいる。就学委員会への流れも記載した方が良いのではないか。

⇒未就学期から就学への流れについては、それはそれで教育側の支援者を交えての新たな話し合いの場が必要だと感じている。そこも含めると流れがかなり複雑になってしまうということもあり、まずは未就学期中の支援の仕組みに絞って形を整理していこうという経緯があったので、今回のフローチャートについてはこの形で良いのではないかと思う。

・こどもセンターから教育委員会にケースを送ることがよくあるが、その後の共有の機会が無く、教育委員会からこどもセンターに問い合わせが入ることもない。今後繋ぎのところはもう少し深い連携出来ると良いように思う。

3 今後の取り組みについて

<事務局>

次の取り組みは未就学期の支援の仕組みについて、保護者向けの案内図を作ることになっていたもので、事務局で素案を作成した。また作成に当たって当事者の声として保護者の参加も考えている。図の対象が未就学期ということもあり、実際にその部分を経験し、その後あまり年数が経ち過ぎてない方が良いかもしれない。年長児～小3くらいまでの保護者でご参加いただけそうな方がいれば推薦してほしい。

=部会員からの意見等=

・支援者向けチャートには母子保健とこどもセンターの年齢の割振りを実際の業務の都合上概ね3歳と記したが、対象となる年齢以外の相談を全く受けないわけではないので、保護者向けの表には年齢の区別は記載しなくても良いかもしれない。

・こどもセンターでも毎年年長になった時に先輩ママからの体験談を聞くという機会があるが、皆の前で体験談を話すことに抵抗感を持つ保護者も多く、選出に苦慮している。

4 その他

<浜須賀保育園>

公立保育園では「MY 保育園制度」というものがあり、近所の園を登録するとメールで情報が届く。(ほっと子育て通信、のびのび、園庭開放の情報など。) まだ登録者が少ない。保育園の「体験保育」では給食も食べ

ることができたり、2回/月サロン浜須賀には保育士が遊びのお手伝いに行っていたり、園庭開放は毎日行っている。あまり知られていなくて残念。もっと周知したい。

⇒子育て支援センターではインスタグラムで情報発信をしている。母親たちにアンケートを取ったところ多くの母が子育て情報はインスタグラムから取っていることがわかった。情報の流し方も考えなくてはいけない時代。

*公立保育園ですすめている特別支援担当者（前コーディネーター）については第4期生育成中である。

<母子保健>

現在13地区を10人の保健師で受け持っている。マンパワーが足りず1～2回の訪問で終わってしまい継続できていない現状がある。健診では全数拾うようにしており未受診の場合は訪問して一緒に付き添うなどしている。

<障がい福祉課>

小学生以上の方の相談が多く未就学の相談件数は比較的少ない。

※次回日程等…10月下旬につつじ学園での開催を予定。